

日本原子力発電(株)における講演会

〔開催日〕 令和元年9月10日（火） 15：00～16：30

〔場 所〕 日本原子力発電(株)東海テラパーク第1コミュニケーションホール

〔講 師〕 近藤 寛子 氏（合同会社マトリックスK 代表取締役社長）

〔演 題〕 「事業者、政府、市民の協働を考える～米国から始まった原子力
検査制度ROPを例に～」

日本原子力発電（株）において、同社が取り組む「新行動計画（平成21年6月26日付公表）」の一環として、合同会社マトリックスK 代表取締役社長の近藤寛子氏を講師にお招きし「事業者、政府、市民の協働を考える～米国から始まった原子力検査制度ROPを例に～」と題する講演会が開催された。

講演会は、東海ノア協定加盟の事業所からの5名の参加者を含む、合計89名の方々が聴講された。

講演会では、1990年後半から2000年当初の米国でおこなわれた官、産、民による改革の話から始まり、新しい制度ROP（Reactor Oversight Process：発電炉を監督するプロセス）の説明、ROPとは、米国制度の2つの大きな転換点、制度改革開始等へと展開され、コンサルタントの目線から「規制の活動の考え方」に纏わるお話を紹介していただいた。聴講者は「検査制度改革から学ぶこと」について、実に幅広く、多くのことを学ぶことができた。



講演会の様子（原電撮影）